

一冊対談集 クリエーターと語るこの国の古典と現代 第4回

江戸演劇からの ディスタンス

宮本 亞門 × ロバート キャンベル

YouTube Live で限定公開します！

日時：2020年7月31日(金) 開演 18時(終了 19時30分予定)

参加者数：1,000名(限定公開) 参加無料

【アクセス方法】

参加登録いただいた後、開催日までに「Youtube Live」のURLを電子メールでお送りします。

【申込方法】

電子メールにて、以下のとおり御連絡ください。

宛先 event@nijl.ac.jp

件名：対談企画申込み【申込者氏名】

本文：①氏名、②住所、③電話番号

※賛助会員の方はその旨も御記載ください。

※お申込みは先着順受付で定員になり次第締め切りとさせていただきますので、お早めにお申込ください。

※ご登録いただいた個人情報については厳重に管理を行い、国文学研究資料館、多摩信用金庫の事業に使用し、それ以外の目的で使用することはありません。

※本イベントへの反社会的勢力の参加はお断りいたします。

【お問い合わせ先】

国文学研究資料館 連携企画・広報係 Tel.050-5533-2910

〈対談要旨〉

江戸時代の生活はいつも病と隣り合わせであった。人口世界一と言われる19世紀前半の江戸では、文字通り障子一枚、一枚の座布団という「隣り合わせ」が生活様式の基本であった。麻疹や天然痘、コレラなどの感染症が街を襲うと、ネットもテレビもないのに人々はその流行を察知し、俊敏に行動を変容させた。まさきに劇場も、そして「夜の街」も客が引き、閑散とする。いつも飛び回っている表現者はなす術もなく、ひたすら守り合い、波が去るのを待つ以外なかった。

今回のゲストは演出家の宮本亞門さん。亞門さんは、ふだんこの時期は日本にいらっやらない。世界を回り、名舞台を仕掛けているからである。

しかし今年の春以降、彼は旅の足を止めざるを得なかった。コロナ下でなす術を考え、仲間と一緒に「上を向いて SING FOR HOPE、DANCE FOR HOPE」という素晴らしい取り組みを立ち上げた。行動半径が狭くなったわたくしたちに向けて、多くの希望と喜びを発信し続けた。

江戸の人々も、芝居に足を運べない時には独りで、又は少人数で「芸で遊ぶ」ことを知っていた。対談では、劇場には行かず遠くから演劇を想像し、身体を使って人々に喜びを与える日本人の習慣と表現への「時」の旅にご一緒したいと考えている。亞門さんが、鮮やかに彩られた浮世絵と古典籍を手にとった瞬間、どんな表情をされるのか、とても楽しみである。

